

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、物価の高止まりで利下げは困難 (Asia Weekly (8/20~8/24))

～台湾経済を巡る不透明感は一段と増す様相～

発表日: 2012年8月27日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

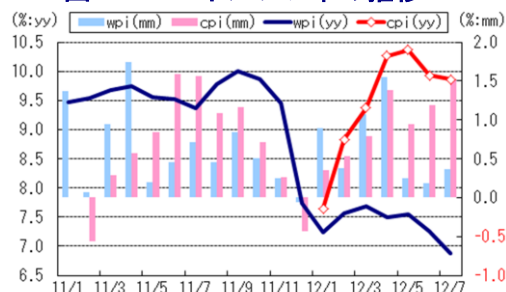
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/20 (月)	(タイ) 4-6 月期実質 GDP (前年比)	+4.2%	+3.1%	+0.3%
	(台湾) 7 月輸出受注 (前年比)	▲4.39%	▲2.98%	▲2.62%
8/21 (火)	(インド) 7 月消費者物価 (前年比)	+9.86%	- -	+9.93%
	(香港) 7 月消費者物価 (前年比)	+1.6%	+3.4%	+3.7%
8/22 (水)	(台湾) 7 月失業率 (季調済)	4.25%	4.30%	4.24%
8/23 (木)	(シンガポール) 7 月消費者物価 (前年比)	+4.0%	+4.5%	+5.3%
	(台湾) 7 月鉱工業生産 (前年比)	▲0.02%	▲1.90%	▲2.44%
	7 月商業販売額 (前年比)	▲1.32%	▲1.37%	▲0.87%
8/24 (金)	(ニュージーランド) 7 月輸出 (億 NZ ドル)	40.0	37.0	41.8
	7 月輸入 (億 NZ ドル)	39.9	37.6	38.9
	(シンガポール) 7 月鉱工業生産 (前年比)	+1.9%	+6.8%	+8.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド] ～インフレ率の上昇に一服感も高止まりが予想される中、金融緩和が行われる可能性は低い～

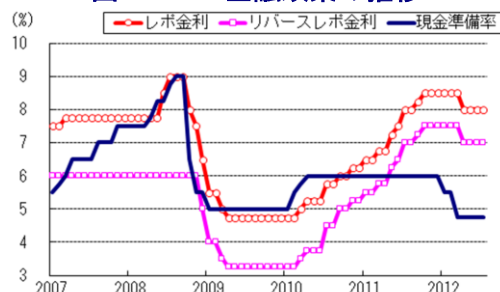
21 日に発表された 7 月の消費者物価は前年同月比+9.86%となり、前月 (同+9.93%) から減速した。前週に発表された 7 月の卸売物価も前年同月比+6.87%と、32 ヶ月ぶりに 7%を下回っており、物価上昇圧力に一服感が出ているようにも思われる。しかし、消費者物価は前月比+1.51%と前月 (同+1.18%) から加速しており、食料品やエネルギーといった必需品を中心に物価上昇圧力が熾っており、過去の原油市況の上昇に伴う価格転嫁の動きも影響している。さらに、今年はモンスーン (雨季) の雨量が例年を大きく下回っており、今後は穀物生産の低迷が供給インフレを引き起こすことが懸念されており、インフレ率は高水準での推移が続くと見込まれる。卸売物価上昇率についても、準備銀が考える「望ましい水準 (5%)」を大きく上回る状況にあることから、直ちに追加的な金融緩和が実施される可能性は低いと予想される。

図 1 IN インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 2 IN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ～輸出に底入れの兆しは窺われるが、先行きへの不透明感は強く、景気の重石になるであろう～

20 日に発表された 7 月の輸出受注は前年同月比▲4.39%となり、前月 (同▲2.62%) からマイナス幅が拡大した。前月比は 3 ヶ月連続で増加したが、機械製品は増加している一方、輸送用機械や IT 機器関連は減少

するなど一進一退の様相が続いている。地域別では、中国本土をはじめとするアジア向けのほか、米国向けは増加したものの、欧州や中東、アフリカ向けは軒並み減少しており、欧州経済の低迷の影響が直撃している。

21日に発表された7月の失業率（季調済）は4.25%となり、前月（4.24%）から▲0.01p悪化した。雇用者数は前月比▲0.5万人と3年ぶりに減少に転じる一方、失業者数は前月比+0.1万人と2ヶ月ぶりに増加しており、生産や輸出の拡大を背景に続いてきた雇用環境の改善に一服感が出ている。

23日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比▲0.02%となり、前月（同▲2.44%）からマイナス幅が縮小した。前月比も+1.9%と4ヶ月ぶりに増加に転じており、製造業を中心に生産に底打ちの兆しが窺われる。7月の輸出受注は3ヶ月連続で増加するなど、先行きの輸出が底打ちする期待はあるものの、依然として不透明感は燻っており、生産の回復は緩やかなものに留まると思われる。

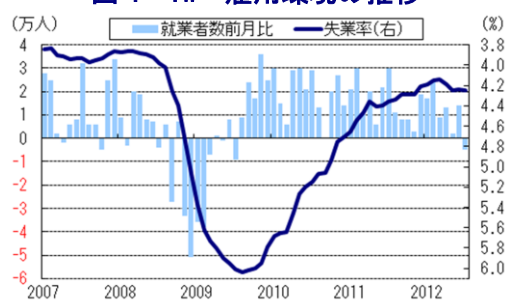
同日に発表された7月の商業販売額は前年同月比▲1.32%となり、前月（同▲0.87%）からマイナス幅が拡大した。前月比は▲0.23%と前月（同▲1.92%）に続いて減少しており、小売売上高は同+1.02%と2ヶ月ぶりに増加に転じるなど堅調であった一方、卸売売上高は同▲0.79%減少するなど全体の足かせになっている。小売売上高については、食料品をはじめとする必需品のみならず、自動車などの耐久消費財も底堅く推移している。なお、足下では雇用の改善ペースの鈍化が懸念されていることから、卸売売上高の減速は先行きの不透明感を反映していると思われる。

図3 TW 輸出受注動向の推移



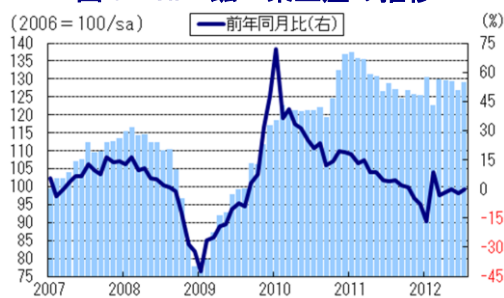
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 雇用環境の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TW 鉱工業生産の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TW 小売売上高の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～インフレ率は低下の一方、生産を取り巻く不透明感是一段と高まっている～

23日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+4.0%となり、前月（同+5.3%）から減速した。前月比も▲0.17%と5ヶ月ぶりに低下しており、原油市況の調整を反映してエネルギー価格が大きく下落したほか、景気減速を反映して住宅関連でも価格上昇が一服している。さらに、足下では通貨SGドルの調整も一服しており、輸入物価の上昇圧力が後退していることも物価が落ち着きを取り戻す要因に繋がっている。

24日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+1.9%となり、前月（同+8.0%）から減速した。前月比も▲9.07%と前月（同+4.14%）までの2ヶ月連続増加から大幅な減少に転じており、毎月の変動幅が大きく同国の主要産業である医薬・バイオ関連の生産が大きく縮小したこと（同▲28.49%）が影響した。なお、医薬・バイオ関連を除いたベースも前月比▲4.21%と前月（同▲3.48%）から連続して減少しており、世界経

済の減速を背景に生産を取り巻く環境は厳しさを増している。

図7 SG インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移

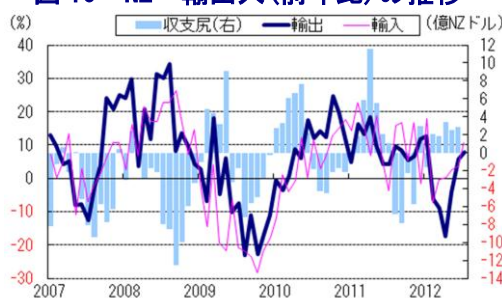


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【ニュージーランド】 ～輸出に底堅さが窺われる一方、内需の堅調を背景に輸入の堅調も続いている～

24日に発表された7月の輸出額は前年同月比+8.0%となり、前月（同+5.6%）から加速した。当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比も増加しており、最大の輸出先である豪州向けのほか、ASEAN向けが堅調に推移したほか、欧州向けにも底堅さが窺われた。一方の輸入額も前年同月比+10.6%と前月（同+3.6%）から加速しており、前月比も内需の堅調を背景に増加が続いた。結果、貿易収支は+0.15億NZドルと前月（+2.87億NZドル）から黒字幅が縮小している。

図10 NZ 輸出入(前年比)の推移

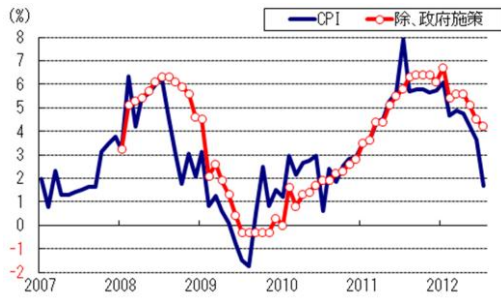


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】 ～公営住宅補助の影響でインフレ率は急低下。影響を除いても、物価上昇圧力は後退している～

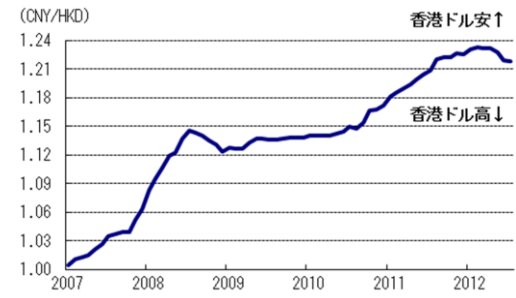
21日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前月（同+3.7%）から大幅に減速した。前月比も▲2.35%と前月（+0.09%）から大幅に低下しており、これは政府が低所得者対策として公営住宅に対する家賃補助を実施したほか、過去数ヶ月に亘る原油市況の調整により電気やガスなどの公共料金が低下していることも影響している。なお、公営住宅に対する補助金の影響を除いたベースでも、前年同月比+4.2%と前月（同+4.5%）から減速している。足下では食料品価格に上昇圧力が燦る一方、景気減速を背景に物価上昇圧力は後退しており、通貨香港ドルの対人民元為替レートは落ち着いていることから、輸入物価の上昇も抑制されると見込まれる。

図 11 HK インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 HK 為替相場(対人民元)の推移



(出所) CEICE より第一生命経済研究所作成

以 上